

P25

小学校における歯科保健活動の取り組み

○粟根佐穂里* 仁井谷恵子* 渡辺美和子***
*にいたに歯科 ***バンビ歯科 (広島市)

[目的] 学童の口腔衛生の向上

[対象] 公立小学校児童(H23 年度 482 名)

[方法] H12 年より、歯科検診だけでなく児童にわかりやすいようにパネルを作り指導を開始した。秋の歯科検診時に事前に養護教諭がパネルを使い詳しく学年毎、クラス毎に指導を行う。検診時に歯科医師が再度ポイントのみ指導を行う。

学年毎のテーマは次の通りである。

- 1 年 六才臼歯の確認とむし歯予防
- 2 年 咬むこと
- 3 年 デンタルフロス
- 4 年 歯肉炎
- 5 年 歯肉炎(歯肉炎観察カード使用)
- 6 年 定期検診の必要性

3 年のみは 1 時限使って歯科医と DH によるスライドや模型による予防教室を行っている。4~6 年は検診時に歯肉炎の個人指導を行っている。歯肉炎のグレードを 3 段階に分けて前年度との比較も行っている。

[考察] 卒業までに「自分で自分の歯を守る」ための知識は身につけていると思われる。但し実践できているかは別問題である。今まで保健主事、養護教諭が熱心な時期には給食後の歯磨きもかなり定着し児童の歯肉炎については予防効果が大きであった。特に担任の影響は大きであった。教員の移動があるため今までに教員と PTA にも 2 度歯磨き指導を含む予防教室を実施した。最近 7 年間の 6 年生の歯肉炎改善者の率(5 年次と比較)は残念ながら平均 25.9% (15.1~39.7%)にとどまっている。又悪化した者もいる。限られた短い指導時間ではあるがより効果的な児童への指導をしていかなければならない。願わくは各学校に DH の常駐による継続した指導が望ましいと感じている。さらに教員、PTA 対象の教育も、機会を増やす必要があると思われる。